

リレートーク

地域ブランドを
次世代につなげる



303



助川成光さん

農事組合法人菊田の郷助川農園代表理事。「農業十傑」として知られる第63回福島県農業賞の農業経営改善部門を受賞。

市民のひろば

Q 農園について教えてください。
施設、水稲、販売の3部門で経営しています。ビニールハウス施設では大玉トマトやミニトマトを中心に栽培しています。米作りで出るもみ殻や摘葉したトマトの葉を使って自家製の堆肥を作っているので、環境に優しい循環型農業です。
私たちは消費者から選ばれるおいしいトマトを作るため土作りにこだわっています。水はけが良くミネラルを豊富に含んだ土で栽培したトマトは11月から翌年の7月まで収穫できます。今は従業員と新規就農を目指す研修生とで毎日汗をかきながら働いています。
Q なぜ新規就農者の育成に力を入れているのですか。
私の農園で作るトマトは「親バカ



土耕栽培により大きく育つ親バカトマト

ですが我が家の『自慢』のトマトです（親バカトマト）」という名前で、勿来地区の生産者組織「菊田施設園芸研究会」が作ったブランドトマトです。もともとは6軒の農家が出荷していましたが、現在は3軒まで減ってしまいました。農家の高齢化や後継者不足で作り手がどんどん減っている状況ですが、先輩たちから引き継いできた親バカトマトは次世代に残していきたい宝物です。
私は、新しく農業を始める意欲がある若い人を少しでも育てていきたい思いで研修生を受け入れています。農園で過ごす時間は短いので、栽培方法はもちろん、農家として生活できるよう、経営方法も教えています。
実は農業は、農作業だけが仕事ではありません。加工品の開発やデザ



次世代につなげる夢を共に追いかける皆さん

インの考案、イベントへの出店やインターネットを活用した宣伝活動もあるのです。農業はいろいろな可能性を秘めた仕事だと思っています。
中学校や公民館で講師として話をする機会もあるので、農業は大変だけれど楽しいということを積極的に伝えていきます。
Q 今後の抱負を教えてください。
法人化して9期目なのでさらに成長していきたいと思っています。勿来地区で育んできた親バカトマトをもっと普及させるためにも頑張りたいですね。
また、私が出せる力を尽くして新規就農者の育成に取り組んでいきたいです。一緒になって農業を盛り上げてくれる人が増えていけばいいなと思っています。